

第4章 調査結果の解析・評価と課題の整理

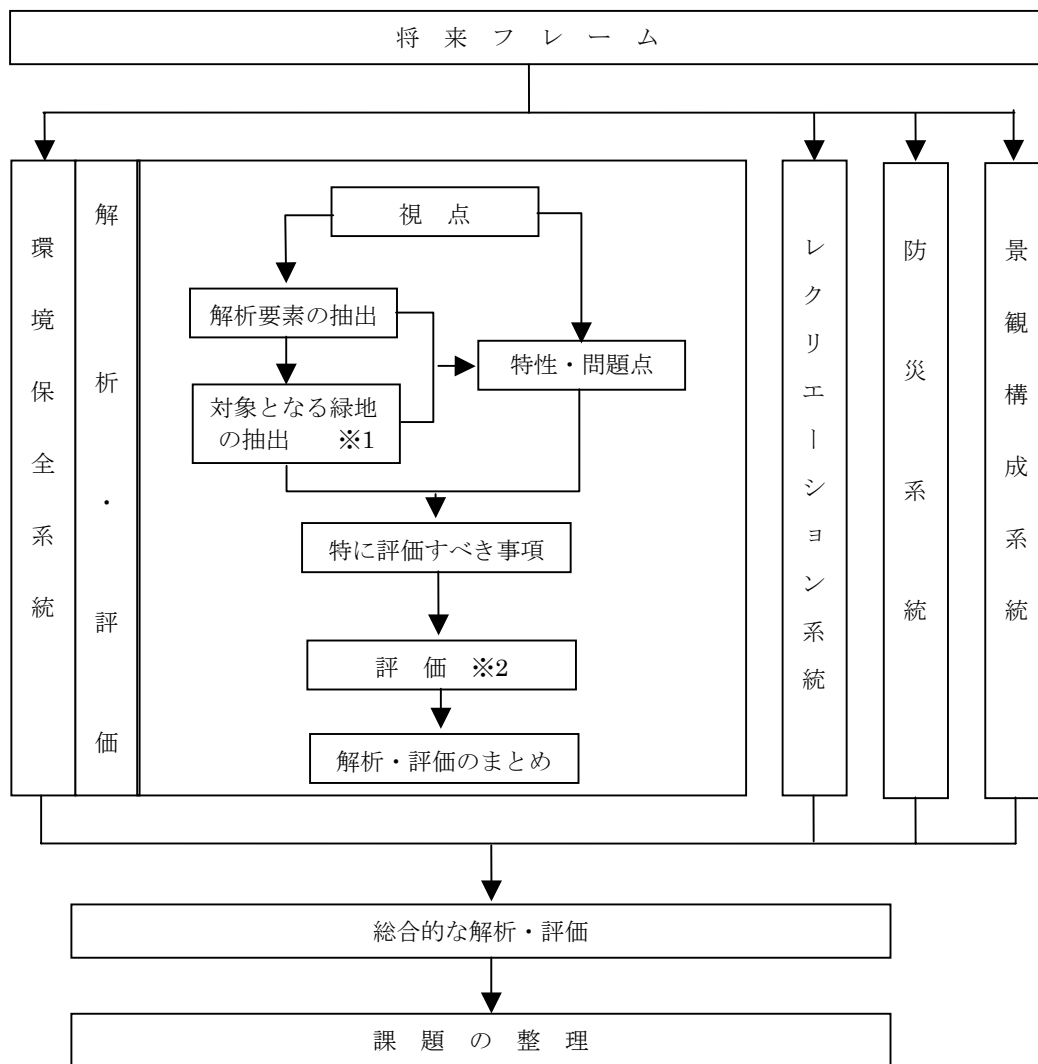
4-1 解析・評価

1) 解析・評価のフロー

都市における緑の基本的な機能として、環境保全、レクリエーション、防災、景観構成の4つがあげられる。本調査ではこれらの4つの機能から緑の解析・評価を行うとともに、これを踏まえた総合的な解析・評価を行う。

下に解析・評価のフローを示す。4系統の解析・評価は各系統とも同様のフローであるため、環境保全系統についてのみ詳細に記述する。

図4-1 解析・評価のフロー



※1 対象となる緑地は現況に存する緑地とするが、計画決定済み緑地を含む。

※2 評価は、各系統における視点ごとの緑の重要度とする。

2) 将来フレーム

ア) 人口フレーム

平成 32 年を目標年次とする愛西市都市計画マスタープランの示す将来人口は、行政区
域人口が減少し、市街化区域人口が増えるとしている。

表 4-1 都市計画マスタープランにおける将来人口推計値

	平成 17 年		平成 22 年		平成 32 年	
市全体 (人)	65,556	(100.0%)	64,759	(100.0%)	61,450	(100.0%)
市街化区域 (人)	19,566	(29.8%)	19,659	(30.4%)	20,050	(32.6%)
市街化調整区域 (人)	45,990	(70.2%)	45,100	(69.6%)	41,400	(67.4%)

イ) 土地利用フレーム

平成 32 年を目標年次とする愛西市都市計画マスタープランでは、市街化区域内の低未
利用地等の利用を促進するとともに、土地利用の一体性、連続性に配慮し、増加する人
口の受け皿や適正な人口密度の誘導を目指した都市基盤整備を推進するとしている。